



ロータリー
米山奨学生
学友会[関西]

29



関西米山奨学生
学友会



ROTARY YONEYAMA SCHOLARSHIP
ALUMNI ASSOCIATION 2013



目次

学友会会長より

張朔源会長..... (1)

米山奨学委員会からの言葉

近藤雅臣副理事長..... (2) 田中真人委員長..... (2) 西谷雅之副委員..... (3)
吉田悦治副委員..... (3)

文化の違い

李相儒..... (4) 孫麗..... (4) 朱翔..... (5)
付翠紅..... (6)

夢を語る

孟夏..... (7) 李政..... (7) Ridwan Achyar..... (8)
Peng Nitsavai..... (8) 文小鹏..... (9) 楊煜凱..... (9)

カウンセラーからの一言

山本恵真..... (10)

ロータリーでの一年

李賢..... (11)

感じたこと

張碩..... (12) 孫麗..... (13) 朱翔..... (14)
黄詠翔..... (15) Peng Nitsavai..... (16) ガンゲン..... (17)
李相儒..... (17) 謝思佳..... (18) 孟夏..... (19)
陳静傑..... (20) 鄭鐘恩..... (21) 文小鹏..... (22)

2013年度会報 募集要項..... (22)

2011年度会計収支決算書..... (23)

2012年度会計予算（案）..... (23)

2012年度の活動報告..... (24)

編集後記..... (24)

2012年役員紹介..... (25)

学友会会長より

六次の隔たりで世界を繋ごう

2012-2013年度 会長 張 朔源

元世話クラブ：豊中千里RC

今年度、学友会は「交流の輪を広げよう」をテーマとして、様々な企画を行い、学友会OB・OG、奨学生、そしてロータリアンの皆様のご協力があって、無事に終わることができました。まず、皆様に感謝の意を申し上げたいと思います。

学友会の活動を通じて、ますます「六次の隔たり」という仮説を信じることになりました。その説では、人は自分の知り合いを6人以上介すと世界中の人々と間接的な知り合いになることができます。企画やイベントでは、色々な国の方、様々な業界で活躍されているかたが集まって来られるので、まさに世界に繋がっている気がします。

今後、学友会という「仲介」をフル回転し、人と人、国と国、そして世界を繋ぐ小さいパーツになれば大変うれしいです。引き続き、皆様のご協力とご支

援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



学友会豆知識

学友会とは？

本会は、元・現米山奨学生間の交流を通じて、親睦および互助を促進すると共に、国際親善・世界の平和に寄与することを目的とする非営利組織です。

最新情報とイベントはどこから分かるの？

本会は、ホームページやFacebook等による運営を行なっております。また、メーリングリストによる一斉送信も行なっております。皆さまのご登録、心からお待ちしております。

Webside: <http://yoneyama2660.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/yoneyama2660>
Email: yoneyama2660@gmail.com

如何に学友会の会員になれるの？

現・元奨学生は、みなすでに学友会の会員です。したがって、是非とも遠慮無くご連絡・活動報告・近況報告等よろしくお願い致します。

会費は必要ですか？

年会費は2012年度より廃止されました。
※但し、活動参加費のみ徴収しております。

学友はどこで役立てるの？

異文化理解から語学力発揮、ボランティア活動から地道なお手伝いまで、学友たちが力になれるところで、今までの恩に感謝する気持ちを込めて貢献しております。

米山学友会副理事長からのことば

学友会の皆さまへ

ロータリー米山記念奨学会
副理事長 近藤雅臣

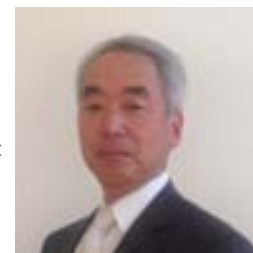


今年も多くの奨学生が巣立って行きました。なれない他国でよく頑張ってくれました。50年前小生がフルブライト交換研究員として米国テキサス大学の研究員として赴任したときのことを思い出します。はじめての外国生活で毎日緊張の連続で、研究成果は急がされるし、家族の面倒は見なくてはならず途方にくれているときホストファミリーの訪問がありました。それ以来親身なお世話をして頂いたことを未だに忘れられません。残念ながらご夫婦は今は亡き人となりましたが、私はそのご恩は決して忘れられず、頂いた温情をとおして未だに真から

の親米派を名乗っています。このような経験から留学生の気持ちはある程度理解できるつもりですので、ロータリーの役職はすべて卒業したつもりですが、一兵卒としてでも米山のお世話だけは続けようと思っています。学友会も台湾、韓国、中国、タイと国際的にひろがりを見せてきました。今後これらとどのように連携して行くかが課題となるでしょう。そのためにも日本の学友会の発展と活躍が望まれるところであります。できればこの地区においても米山が中心になって新しいロータリークラブを設立してもらえないかなど夢見ている昨今です。

米山奨学委員会委員長からのことば

2012～2013年度 2660地区 米山奨学委員会 委員長
田中 真人（大阪北RC）



平素はロータリー米山記念奨学会及びロータリー活動にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

またこの度、米山奨学生を無事終了した皆さんが米山奨学学友会メンバーとしてロータリー精神を受け継ぎ活動していかれることと心強く感じております。

昨年度1月の面接で緊張していた皆さんが4月の新奨学生オリエンテーションにて担当ロータリークラブのカウンセラーと初めて面識を持ち、その後各クラブのいろいろなロータリアンとの出会いがあったことと思います。最後の歓送会ではロータリアンと皆さんの強い絆を垣間見ることとなりました。限られた期間の中で各奨学生・ロータリアンの皆様が様々な触れ合いを通して出来た絆だと感じました。奨学生の皆さんはロータリアンから“日本人の心”を理解され、またロータリアンも奨学生から様々な国の価値観等を勉強出来たのではないかと思います。私は、この“米山記念奨学事業”はロータリアンが奨学生を“教育”するのではなく、この事業を通してロータリアン・奨学生が共に育つ“共

育”の事業ではないかと思っております。本年度で3回目になるスピーチコンテストでは奨学生の心から出てくる感謝の言葉に多くのロータリアンが感銘を受けただけでなく、司会者も感動のあまり涙声で司会進行をしていたのを記憶しています。

日本に“縁”という言葉があります。まず私がロータリーに入会したのもさまざまな方との縁です。そしてこの米山記念奨学事業との出会いもさまざまな方との縁です。同じように奨学生の皆さんがまず日本に来られたのもさまざまな方との縁があったからです。そしてこの米山奨学生になられたのもさまざまな方との縁です。

これから学友会の皆さんはさまざまな方向へ進まれることですが、是非ともこの“縁”を大事にし、未来への大きな夢を持って、広く国際社会で活躍され、日本と自国だけでなく世界の人々と強い絆を作り“世界平和”に貢献されることを祈念申し上げる次第であります。

米山奨学委員会副委員長からのことば

私が地区米山奨学委員をしている理由



西谷 雅之（大阪城南RC）

私は1990年12月から1994年12月まで4年間マレーシアに駐在していました。その時大変お世話になった凌さんと言うマレー系中国人の方が居られます。彼は終戦間もない頃九州大学に留学され日本航空に入社、その後転職し私と知り合った1989年には住友商事のクアラルンプール支店で日本からの投資案件を纏める仕事をされていました。年はちょうど20歳離れていましたが妙に気が合い現在も家族ぐるみのお付き合いをさせていただいています。

彼には口バートと言う息子さんが居り、結婚が遅かった事もありますが年を取ってからできた男の子と言う事で大層可愛がっておられました。私と知り合った時口バートは小学3年生で、一時帰国の度にTVゲームの中古ソフトをお土産にしていたものです。日本に留学したら僕が口バートの面倒をみますから大阪の大学にしてくださいねと話をしていました。

その口バートがオーストラリアの大学に入学した時、凌さんから学生服を手に入れて欲しいと頼まれま

した。所謂「学ラン」という物です。日本に留学していた時の凌さんはお金も無く苦勞され服は夏も冬も学ランだったそうです。そうした学生時代の苦勞を息子にも伝えたい、と学ランを着て大学に行くように指示したと言っておられました。大学はおるか高校も今時学ランが制服と言う学校はどんどん減ってきています。入手するのに八方手をつくしたのを今でも覚えています。

しかし残念な事にその口バートは大学2回生の時に自殺してしまいました。理由は今でも判りません。彼は学ランを着て亡くなりました。遺書には学ランが気に入っていました、西谷さんありがとう、埋葬もこの学ランのままでお願いしますと書かれていたそうです。

今私が奨学生や学友会のお世話をさせていただいているのは口バートにしてあげられなかった事を果たしたいと言う想いからなのかもしれません。

米山奨学委員会副委員長からのことば



吉田 悦治（大阪大淀RC）

私には好きな詩があります。与謝野鉄幹の「人を恋うる歌」と云う詩です。

1番から16番まであるのですが、出だしの1番が1番気に入ってます。

1.「妻をめとらば才たけてみめうるわしく情けある
友をえらばば書を読みて 六分（リクブ）の俠気
（きょうき.カタギ）四分の熱」

嫁様をもらうなら、頭がよくて美人だけではダメですよ、人情に厚い人をもらいなさい。

友達をつくるとしたら、勤勉で6割の義理人情を重ん

じるだけの人ではなく、4割の情熱をもっている人がいいですよ。・・・と云う詩です。

私は学生時代、授業に、クラブに行く時よく口ずさんでいました。おかげで今の家内と出あうのが、遅くなりましたが皆様もよく勉強するだけでなく、各ロータリークラブで多くのロータリアンとの出会いを通じて、ロータリーの精神、ロータリアンの情熱を身を持って体験してみてください。

最後になりましたが、学友会の益々の発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

文化の違い

日本と中国の違い



大阪大学薬学研究科
分子薬科学専攻
李 相儒（中国）
世話クラブ：豊中RC

私は2008年10月に中国の遼寧省瀋陽市より日本に留学に来ました。今まで四年経ちました。現在大阪大学薬学研究科の博士後期課程2年生です。

この四年間に、通学しながら、アルバイトや旅行や日本人との交流をして、日中の異文化を体験しました。全体から見ると、この二つの隣国は多くの面で似ていると思いますが、やはり日本人と中国人はさまざまな違いを持っていると感じました。

まず日本人と付き合って、中国人と日本人の性格の違いをよく感じました。日本人は中国人よりもっと細心でまじめです。人と付き合うとき、日本人はよく相手の気持ちと立場を考えて、迷惑をかけることをしたくないですから、時々本当の気持ちを直接に言い出すことをしません。中国人は自分の気持ちを隠したくなくて、はっきり言います。しかし日本人はとても細心ですが、自分の気持ちを押さえているので、気持ちを表すのが苦手なようです。

また、食文化に関して違うところが大分多いと感じています。いくつかの例を挙げますと、日本では皆で「いただきます」と言い、それから一緒に食事を始めます。そして、食事の終わりには「ごちそうさまでした」と言います。しかし、中国ではどちらの言葉も言いません。また、ラーメンを食べている時、中国では音を立てるのは失礼のイメージを感じますが、日本では逆に音をたてた方おいしそうに感じると言われます。他にも、お酒を飲むとき、中国で「乾杯」と言うと、その人はお酒をすべて飲み干さなければならないですが、日本では全部飲まなくてもいいと感じました。なぜかという、日本での「乾杯」は「皆で一緒にお酒を飲みましょう」という意味だからでしょう。また、中華料理に油を結構使います。勿論油が多いとおいしいですが、健康の面を考えると、日本料理のほうがもっと健康でしょう。

日本と中国の風俗も違うところを感じました。例え

ば、社会人では、日本人の「ワリカン」の習慣が中国にはありません。目上、年長者、上司が勘定を持ち又同じ仲間であってもその日誘った人が払うというのが普通です。

一言と言うと、歴史、社会制度、国民の民族構成、日本と中国はさまざまな差異を持っているこそ、それぞれの環境で育てられる日本人と中国人にはいろいろな違いがあるということが理解できます。私たちは留学生として、知識の勉強以外、異国の文化を理解して、そしてうまく慣れて、自分の視野を広げることが留学の目的でしょう。

来日して自分の国と違うなと思ったこと



大阪市立大学
食・健康科学コース
孫 麗（中国）
世話クラブ：大阪なにわRC

私は中国の吉林省から参りました孫麗と申します。現在大阪市立大学の生活科学研究科で食・健康科学を専攻しています。

6年間、私は活気あふれる大阪で、非常に充実した楽しい留学生生活を送ってきました。いい先生方や友人に恵まれ、彼らと接する機会を通じて、異なる文化にも触れることができました。また、驚いたことや感じたことも沢山ありました。そのいくつかを紹介したいと思います。

まず、日本に来て驚いたのは、電車の中で、目の前にお年寄りが立っていても、席を譲らず、無視している若者を良く見かけました。母国では地方によって、多少異なるかもしれませんが、【尊老爱幼】日本語で言えば、「そんろうあいよう」と言う諺があり、未だお年寄りをうやまう伝統がまだ残っています。それから、日本人は、簡単に人や情報を信用しすぎる傾向があることにも驚きました。その人が良い人か悪い人か、正しい情報かどうかを深く考えず、すぐに信用してしまいます。私には、その理由はよく分かりませんが、恐らく日本の歴史が、中国のように国境を接する国がないため、他民族からの侵略が少なく、平和な時

代が長く続いたからではないかと想像しています。

その反面、日本の素晴らしい点の一つは、そのサービス水準です。世界一素晴らしいと思います。どのお店に行っても「いらっしゃいませ。有り難うございます。」という言葉必ず耳にします。しかし、中国では、サービスなどあってないようなものです。ものとお金の交換ができればいいだけで、「気持ちよく買ってもらう」「お客さんに満足してもらう」といった考えは全くありません。むしろ、「買うの？買わないの？買わないのだったら邪魔しないで」といった具合に、お客さんより態度の大きい店が多くあります。中国には、このような日本の高いサービスを是非見習ってほしいと思います。それから、大学の日本人の友達はみんなお金や食べ物を大切にしているのを見て、私はすごく感心しました。中国では友達を招待するとき、食べきれず、残るとわかって、いっぱい注文をしてしまいます。これと反対に日本人は節約の民族だと思います。日本人は、世界の経済大国の民族だと言われているが、節約を美德としているところも勉強すべきだと思います。またグループ課題が出された時に、チームワークを重視し、集団を個人より大事にすることや、誰にも負けない根性と謙遜な心を友達から勉強しました。

私が大学で栄養学を勉強しているためか、食べ物や食文化について特に興味があります。昔の中国では、料理を大皿から取り、料理が運ばれたら、まず招待した人が最初に箸をつけ、それからお客様に料理を勧めます。これも日本では考えられない習慣かもしれませんが、先ほど話した、日本人は人を信用しすぎる理由の反対ではないでしょうか。つまり、中国人は、この料理は安全ですからどうぞお食べ下さいと考えるわけです。しかし、今の中国では、日本と同じように客をもてなしにするため、まずお客様に料理を進めてから食べるようになっていきます。

また、日本料理は中国と違って、お膳料理が多く、料理を一つ一つ美しいお皿やお鉢に盛り付け、一人ひとりに配ります。最初は、こんなに食器が多いと、食べた後の洗い物が大変だと思いましたが、これが日本の文化で、美しく盛り付け、見た目と味を大切にすることがわかってきました。食文化は、国や地域によって様々な違いがありますが、私は、食事でもっとも大切なことは、食器の使い方や食べ方ではなく、食卓を囲む人たちが楽しい時間を一緒に過ごすことだと思っています。

日本で長年住んでいても、私が知らないことや母国と異なることがまだまだたくさんあると思いますが、これからも身をもって体験して行きたいです。

来日して自分の国と違うなと思ったこと



関西大学
文学研究科
朱 翔 (中国)
世話クラブ：吹田RC

朱翔と申します。現在は関西大学文学研究科の修士二年生です。

日本近代文学を専攻にして、日本の近代文豪の夏目漱石について研究しております。お世話クラブは吹田ロータリークラブです。吹田ロータリークラブの皆様に変にお世話になっています。

私の故郷は中国の雲南昆明である。中国で、雲南省は少数民族が一番多いところだと広く知られている。中国には56の民族がいて、雲南省だけには25の民族がいる。雲南省にしかない少数民族が15ほど存在している。それとともに、多様な気候が存在している。雲南省は「動物王国」、「植物の王国」、「非鉄金属の王国」と知られている。「彩雲之南」という素敵な名前も持っている。

「彩雲之南」の出身の私は2008年4月に「桜の国」の日本へ留学に来たのである。もうすぐ5年間になるのだが、本当にあっという間だと感じている。この身を持って、日本文化をいろいろ体験した。日本と中国は「一衣帯水」と言えるが、文化や習慣の面で違うところもたくさん存在していると考えている。

日本人は「内」と「外」の観念が非常に強く、「内」と「外」の限界がはっきり区分している。駅で電車を待っている時、流れている放送を聞いて、非常に気になることがあったのである。「危険ですので、白線の内側でお待ちください。」と、放送はこうに言っていた。「内側」というのは電車の走っているほうではないか。それはもっと危険ではないか。」と、中国人の私は全然見当がつかなくて、このように考えていたのである。このことについてずっと気になって、いろいろ調べて、答えが見つかった。それは日本人と中国人の考え方の違いが故である。日本人は、「私」がいる場所、空間が「内」だと理解している。中国人は、「内」を考えている時に、「私」というもののからの視点が入れてなくて、単に「線」を限界として「奥側」は「内」で、「奥」以外は「外」だと考えている。それはどうして同じ「内側でお待ちください」について、日本人と中国人の理解が違っているのである。

私は日本文化が「心が込めている」、「暖かい」文化だと理解している。それは普通生活の様々な面から現わしている。コンビニで傘を買う時、スタッフがビ

ニール袋を外してくれること、雨の日にショッピングバックの上にビニール袋を被せてくれること、日常生活の中にそのような「暖かいサービス」がたくさんある。どうして日本の懐石料理はおいしいだろうか、それは「心が込めている」からである。私の大好きな日本文化は懐石料理と同じように「暖かい心が込めている」のである。そのような暖かい文化は中国の人々に伝えたくて、もっと多くの中国の人々は日本のことが好きになってほしい。それは米山奨学生の私の使命だと思っている。

来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと



大阪国際大学大学院
経営情報学研究科
付翠紅（中国）
世話クラブ：大東RC

私は、中国の山東省済南市からやってきた付翠紅と申します。2006年4月来日し、今年で7年目になりました。現在、大阪国際大学大学院経営情報学研究科で勉強させていただいています。私の研究テーマは、中国における資生堂の経営戦略です。

私は6年前に日本に来た時、日本語についての知識がまだ不十分で、完全な文章で話すことができませんでした。ただ、思ったのは同じ黒い髪と黒い目、同じ黄色い肌で、また同じ漢字を使うことで、親近感がありました。しかし、親近感があっても、日本の生活に慣れていくうちに、自分の国と違うなと思うところがたくさんあると気付きました。

このようなことで、自分の国と違うところをいくつか紹介したいと思います。

まず、他人に対する配慮について話してみようと思います。日本では、電車を待つ時に必ず電車のドアの両側に一列に並び、降りる人が出てから乗ります。また、電車の中で携帯電話をマナーモードに設定し、電話をする人や飲食をする人は殆どいません。一方、私

の故郷の中国では、電車を待つ時、並ばずに乗降する人が混乱になる光景がよく見られます。また、電車の中で携帯電話の禁止をされず、電話をする人がたくさんいます。飲食する人や大きい声で話す人もいます。

また、日本では道路の工事や水道の工事などを実行する前に、付近の住民に「ご迷惑をおかけすることになり、お詫びいたします」という内容を書いている紙を送ったり、工事をする本番に、「工事中、ご協力をお願いいたします。ご迷惑を掛けております。」と、書いている看板を立てたりします。他にもたくさんあります。他人に対する配慮がいろんな面で現れています。

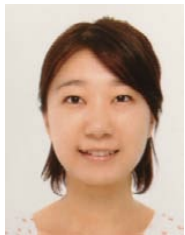
次は、日本人の優しさと親切であることです。私は日本に来て初めて飲食店でアルバイトをした時、日本語がまだ下手でお客さんからの注文をよく間違えました。しかし、店長は私に一度も怒ったことがありませんでした。いつも優しい言葉で私を励まして下さいました。また、同じ時、私の友達が道で10万円が入っている財布を落としてしまいました。当時、彼にとってこの10万円は大金でした。お金がなくなった彼はとても焦りました。彼がお金はもう取り戻せないと思った時に、警察から電話がありました。ある年配者がその財布を拾い、交番に届けました。このような親切な人のおかげで、なくなった大切なお金が取り戻すことができました。また、日本人は道を聞くといつも優しく詳しく教えてくれたり、教えても分からない時、目的地まで案内してくれたりします。

最後に私が一番驚いたのは、日本人の時間についての概念です。電車やバスなどは、いつも時間通りに運行しています。これは始め、私は信じられませんでした。私が数十秒遅れただけで電車に間に合わなかった事がよく起こった後、日本人は時間の概念についてとても厳しいと思いました。

以上私が来日してから、日常生活の中で体験した母国の中国との違うところです。日本と中国は隣国なのに文化の違いがたくさんありました。お互いに異文化を理解し、良いところを受け止める努力をすれば、よりよい関係を築くことができるのではないのでしょうかと、私なりの考え方です。また、今後さらに異文化を深め、帰国後、日本で体験したことをすべて祖国の人に伝えたいと思い、両国の架け橋の役割を果たせたらいいなと思っています。

夢を語る

私の夢



相愛大学
日本文化専攻
孟夏（中国）
世話クラブ：大阪咲洲RC

私は孟夏と申します。中国東北地方の港町・大連の生まれで、高校を卒業してから遼寧大学に入って日本語を学び、授業で海に囲まれている日本は独自の文化を持っていて、その文化の多彩さを知りました。「百聞は一見にしかず」、大学2回生の前期が終わる頃に、留学を決めました。

日本で滞在した二年間半は、学校で日本語、日本の歴史と文化を勉強して、日本の学生さんと付き合っていて、毎日充実しています。学校の先生からも面倒を見て、留学生に日本文化をよく理解させるために京都、奈良などのところに見学させていただきました。授業でも難しいところは理解しやすい言葉で真剣に説明して、すごく感動しました。勉強のことだけではなく、学生たちが抱えている様々な悩みにも親切に相談していただいたので、そのときから先生たちの洗練と熱心またはまじめな態度によく感じまして、勉強にも、仕事にも難易にかかわらず、真剣にしなければならないということがよくわかりました。将来は学校の先生たちと同様にいつか教壇に立ちたいという考えが思い出しました。今は日中文化の比較を研究しているので、先生になれば同じ興味を持っている若い人に自分の知識を伝え、学生たちとともに日中文化の交流を進みたいと思っています。この志望を目指し、これからしっかりと専門知識を学び、自分の研究を深め、知識と能力を身につけたいのです。

ロータリー米山の奨学生になってから、世話クラブでそれに学友会の皆さんからいろんな面倒を見ていただきまして、見学活動とかクラブの例会などのことを通じて中国と違う文化を体験してくださって、皆さんも私との交流や触れ合いを通じて中国のことを詳しく了解できて、このようにお互いに両国のことを理解するのは、文化交流の一部になると思います。

日本と中国は一衣帯水の隣国であり、このような文化交流は非常に重要だと思います。将来は先生になれば、日中留学生の文化交流について学校で活躍したいと考え、自分は母国語以外に日本語と英語を利用して、さらに大学で学んだ専門知識を生かし、もっと多くの人々の心に文化交流の意識を喚起し、皆さんに日中文化の違うところと共通性を伝えてあげたいのです。日中文化を研究する私は自分の小さい力を通じて地道に努力して日本と中国交流の懸け橋にとして役に立ちたいと思っています。

私の夢について



大阪国際大学大学院
経営情報学専攻
李政（中国）
世話クラブ：新大阪RC

大阪国際大学大学院経営情報学研究科李政と申します。2007年4月に来日しました。現在は「日本企業におけるM&A活動」を中心に研究しております。

人生の夢は、段階的に変わっていくものを聞いたことがあります。今から振り返ると、確かにそうです。

中国の大学を卒業した頃、真剣に自分の人生を考えたいと、日本への留学の道を選びました。

2007年4月に、私はたった一つの夢を持って、未知の日本に来た。その時私は、自分の夢と家族の期待以外に何もなかった。関西空港の出口を見ながら、自分に「将来は、必ず日本の大手企業に入って、グローバル人材になる」と言いました。これは、当時の夢でした。

来日4年後、私は奨学生として、ロータリー米山奨学会の一員になりました。クラブ例会とロータリー米山奨学会のイベントに参加したことと、ロータリー米山奨学会の皆さんとのコミュニケーションを通じて、私は人生における「自分の仕事は大切なことですが、もっと大切なことはほかにもあるのを学びました」。口

ロータリーの高潔性・親睦性、そして中核となる価値観「社会奉仕」であること、ロータリーに入って、私の人生観と価値観を変えられました。

来日5年後、自分の努力がようやく実り、「凸版印刷株式会社」の内定をもらいました、来日の夢を実現させました。但し、ロータリー米山奨学生として経験したことにより、私の夢が変わりました。「自分はいくら出世しても、他人に奉獻する心がないと、無意味な人生だと思っています」。

来年は、新しい道の新しい一歩を踏み出します。また未知の都市（東京）に行って、新しい「夢」を実現するために、全力で頑張りたいと考えています。そして、将来はグローバル人材として、日中のかけ橋として自分の力を貢献したいです。

また、自分は永遠にロータリーの一員であることを忘れずに、積極的に社会奉仕活動に参加したいと思います。将来は中国に帰っても「社会奉仕」活動をやり続け、昔は「全力で頑張る自分が大好きでしたが、現在は、奉仕の心にも身につけた自分がもっと好きです」。

私の夢について



大阪国際大学
情報デザイン専攻
Ridwan Achyar（インドネシア）
世話クラブ：交野RC

私の名前はRidwan Achyarと申します。インドネシアからまいりました。現在、私は大阪国際大学で勉強しています。学部は現代社会学部で、学科は情報デザイン学科です。いつの間にか日本にはもう5年も住んでいます。長いけれど、味覚感じます。

私はよく人に「なぜ日本に孤ましたか」と質問されます。理由はいくつかあるけれど、日本のアニメが大好きというのが一番強いです。その理由で、日本へ来る前に私はアニメーターになりたかったです。しかし、時間がたてばたつほどその夢をあきらめました。なぜかという、私は絵を描くのがとても下手だからです。夢をあきらめて、とても不安で仕方がなかったです。「私の将来はどうなるか、将来何をやればいいのか」と心配しました。その心配をしたまま日本での生活をしました。もう1年もたちました。まだ不安で仕方がなかったです。そろそろ日本語学校を卒業する時が近づきました。

気分転換で、ある日私は大阪の日本橋に行きまし

た。電気製品やアニメや漫画などがたくさん集まっているところです。そこでいろいろなものを見たりしました。突然あることを思いつきました。「自分の会社を作ればいいんじゃないか、コンピュータソフトやアニメーション作りの会社を作ればいいんじゃないか」と思いつきました。ちょうど私もコンピュータが大好きです。日本橋から帰って、その日の夜そのアイデアをじっくり考えました。いろいろ考えた結果、「間違いなくこれが私の新しい夢だ」と思いました。新しい夢でもあり、新しい人生の目的でもあります。そして会社を作るのがいいことだと思います。なぜかという、会社を作って、人を採用する、つまり会社を作るのが仕事を作ることだと思いました。これはいいことだと思いました。そのため、自分の夢がかなうようにこれからいろいろなことを勉強して頑張っていきたいと思っています。

私の夢について



大阪日本語教育センター
ペンピニットサシヴィモン（タイ）
世話クラブ：大阪梅田東RC

私はタイのチョンブリー県から参りましたペンピニットサシヴィモンと申します。2011年10月から大阪日本語教育センターに入学し、日本の大学院を目指して頑張っています。

私が日本に留学してきた理由はただ一つです。それは私の出身大学の教育学部の日本語学科が教員不足で閉鎖されそうな状態になっているからです。最近、タイの新しい教育省の省令により、教育学部では大学院以上を卒業した人しか教鞭を執れなくなっていて、たくさんの教育学部がつぶれそうになっています。私が学んだ教育学部の日本語学科も、この省令に即して、もし、当てはまる人材がいなければ、数年後には閉鎖されることになります。当時の私はただの一人の卒業生で学力も力も何も持っていなかったのですが、なんとか力になりたいと思いました。それで、日本の大学院に入って、博士課程を卒業できれば、向こうに戻って継ぐことができるのではないかと考えて日本に来ました。

もし、普通の卒業生なら、自費で留学して、出身大学の学科の存続のために尽くそうとまでは思わないかもしれませんが、私はその一期生だったので、先生とも大学とも深くつながっていました。正直、タイでは外国語を専門にすると学費が高いというのですが、

私の卒業した大学はそんなにお金がなくとも入れるような大学なので、経済的に恵まれた学生や、アルバイトをやりながら勉強する学生などいろいろなタイプの学生がいました。けれども、皆は日本語の勉強に一生懸命でした。私だけでなく、他の卒業生も、日本語を教える職業に就いたり、日本人の会社に勤めていたり、それぞれ自分の学んできた日本語を生かしています。私はそれを見て、教員不足などの問題からタイで日本語を教える人材が減ってしまうのはとても残念なことだと思いました。私はその時から、日本に行って博士を取ろうという目標ができました。

しかし、私の家族はごく普通の家族で父は海軍に勤務していて、母は小学校の先生をしています。経済的には一般の家庭と同じで、正直、私を留学させることも大学院まで行かせることも家族には迷惑だと思っています。私はいろいろ考え、悩みました。そして、最後に夢に向かって進もうと決めたのです。私は自分の目標だけを考えて、とても身勝手だと思っています。でも、将来は自分の学んできた知識や体験を生かして、少しでも出身大学の教育学部日本語学科の復活に貢献したいと思っていますし、タイで日本語を勉強する人の力になれるように私なりに頑張りたいと思っています。

「かわいいおばあちゃん」になりたい



大阪ハイテクノロジー専門学校
日本語学科
文 小鹏 (中国)
世話クラブ：大阪ネクストRC

子供の時、「あなたの夢は何か」と聞かれました。その時、実は夢は何かわかりませんでした。とにかく、答えようと思って、「エンジニア」と答えました。今思い出すと、今していることと昔の夢とが全く違っていて、笑ってしまいます。

高校生の時、医薬について勉強したかったので、薬科大学を選びました。大学の頃、やはり研究員になりたいと思って、日本へ留学することを決めました。夢は何だろうか。この文を書こうと決めた時からずっと考えていました。夢は人生のゴールでしょう。夢を実現するためには一生かけなければいけないでしょう。人生が終わる前に、一生振り返って、「ああ、夢が実現した」と言えるのは幸せだと思います。これがほんとうの夢、人生のゴールだと思います。子供の時の「エンジニア」や、大学生の頃の「研究員」などはこの段階の目標です。夢ではありません。

人との付き合いから異文化を受け入れることが私は好きです。私の夢は「かわいいおばあちゃん」です。ちょっと恥ずかしいと思いますが、この夢を実現するのは難しいです。「かわいいおばあちゃん」になる前に、必ず優秀な女性になるべきで、「心」の教養が大切だと思います。知識を吸収することのみならず、人との付き合いや体を鍛えることも重視しなければなりません。外の物事と接触すれば、いろいろなことが習えると思います。人と付き合うことや、異文化を受け入れることを通して、まるで鏡のように自分の心の姿が映えます。自分の心をよく磨いてこそ、素敵な人になれると思います。

多くの人は年を取った後、頭がかたくなってくると聞きました。私はこのようなお年寄りになりたくないです。年を取っても新しィ物事を受け入れ、若い人と友人になれるおばあちゃんになることが私の夢です。つまり、体が老けても、心が若い人になりたい。

この夢を実現させるために、今頑張っている勉強し、研究員として業績をあげ、世界を巡り、いろいろな人と仲間になりたいです。素敵な人になり、優しい女性になり、年を取っても心が若いように努力したいです。そして人生の最後に、「一生は無駄ではなかった」と言えれば、この人生は完璧だと思います。

私の夢について



大阪大学大学院情報科学研究科
マルチメディア工学選専攻
楊煜凱 (中国)
世話クラブ：吹田西RC

大阪大学大学院情報科学研究科、マルチメディア工学選専攻の楊煜凱です。中国上海市出身です。今はコンピュータネットワークについての研究に取り込んでいます。

ITに専攻する私は何を考えて、何のため頑張っているといいますと、やはり自分の夢を実現したいです。私の夢は二つがあります。

一つ目は、いつか自分の開発したIT技術で世界を変えることです。小学生のころ、私が初めてコンピュータという妙なものを触れました。その時に、ただコンピュータでゲームをするだけですけれども、さまざまなゲームの面白さだけではなく、コンピュータ自身の動きにもすごく不思議と感じられました。すごが大きくなって、コンピュータは数得られないダイオードとチップスから構成されました。なぜこんなものから、さまざまな情報を処理し、映像や音声などユーザ

一に納得できる情報に変換できることは実に面白いと思います。小さなころから、IT技術に大きな好奇心を持っていました。実は当時に、ビルゲイツさんとマイクロソフト会社に非常に憧れるという気持ちを持っています。あの方のような技術で世界を変える力を持つ人間になりたい。小さなころからの夢というものですけど、今の私もそれを目指した、頑張っています。なぜなら、この夢を実現できるかどうか、今の私にはわかりませんが、十年後または数十年後の私を後悔させないため、私がこの道に沿って努力しています。

もう一つの願望は、将来に日中両国民間交流の懸け橋の一員として、世界の舞台に活躍します。日中両国は隣国であり、切っても切れない繋がりがあると思います。もちろん、隣国ですから、たまに紛争が発生するかもしれません。しかし、道は曲がりくねっていますが、この道のトレンドは日中友好だと深く信じています。両国の交流の元は民間にあるという言い方はよく言われています。特に政府の紛争が発生する時に、民間の交流はすごく大事なことだと考えられま

す。そして、民間の交流は両国国民お互いの理解に基づいて、展開されています。私のような日本に留学したことのある人たちの責任は、このお互いの理解を推進すると思います。実は、これが簡単なことではないと思います。なぜなら、この推進は、単なる両国のいいことを紹介して、交流させて済むことではないと思います。いいことだけではなく、悪いことも交流させて、お互いに納得できれば、これこそ理解ということだと考えます。もちろんいいことを提唱する交流はメインですが、悪いことまったく納得し難いことを納得させできれば、何より喜ばれることではないでしょうか。最近、豊中市日中友好協会の田中潤治会長は阪大の中国留学生十数人を誘って、BBQをやりました。私も参加しました。複数の市の日中友好協会の先生たちがこられまして、いろいろな話をしました。交流会の期間に、民間はお互いの理解の基礎ということを痛感しました。

将来には、自分はどんな人間になろうと、この二つの夢を忘れずに、頑張ります。

カウンセラーからの一言

山本 恵真（新大阪RC）

私がロータリークラブに加入したのは平成19年7月からでした。

米山奨学会のカウンセラーを仰せつかったのは、平成23年4月からでした。対象者は韓国の留学生で大阪経済大学大学院生孔允君でした。

奥さんの居る既婚者でしたので、夫妻ぐるみのお付き合いでした。彼は温厚で、心優しく、礼儀正しい方でした。生活も安定して居る様子で（もっとも夫妻共稼ぎのアルバイトをして居られたようですが）そんな状況でしたから、お付き合いも例会のみのお世話で、あまり深い付き合いはありません。秋に夫妻と一緒に京都の観光案内をした位です。今は母国に帰られ、向こうで就職して居られる様で音信は途絶えて居ります。

次にカウンセラーの経験を生かしてお世話してくれと仰せつかったのが、平成24年4月からの李政君で、彼は中国の遼寧省遼陽市の出身で、大阪国際大学の大学院生でした。

彼は、親に経済的な負担を掛けまいとしてアルバイトで生活費や学費を捻出して居る様で、かなりハードな生活をして居る様です。私も学生時代、両親の仕送りなしでバイトしながら生活して居りましたので、同じ体験をしたものとしての親近感を覚えました。彼の身体や生活の様子を聞きましたが、身体は頑健で病気がたことないと、朗らかな性格で周りからも信頼され

頑張っている様で、安心しました。

彼との思い出は、平成24年11月に行われた、立山アルペンルートへの一泊旅行（奨学会主催）参加と、正月に一日、宇治方面へ観光に行った事で、楽しい思い出となりました。

彼も性格は温厚で、心優しく礼儀もあり、大変心配りのある好青年で、将来性の有る好人物だと感じて居ります。毎月の例会には真面目に出席し、クラスメンバーからも好評を得て居ります。三月でお別れですが、彼は東京の凸版印刷に就職が決定しました。

彼の前途も洋々であり、心から慶んで居ります。彼が希望すれば、これからは親厚を深めたいものと願って居ります。

二人の奨学生をお世話させて頂き、私も彼等から頂くものがあり、有難いことでありました。彼らが両国の友好の一助を担ってくれることを願って居ります。



ロータリーでの一年

ロータリーで1年を過ごして



関西大学商学部
李 賢 (韓国)
世話クラブ：東大阪みどりRC

東みどり大阪クラブのロータリアン方々と初めてお会いした去年の春が昨日のように感じますが後少しでお別れだと思ったら寂しい気持ちでいっぱいです。

本日は今日までの奨学金のご支援に対し、一筆御礼申し上げたく、ロータリーで学んだことと卒業のご報告も兼ねて筆を執らせて頂きます。

ロータリー奨学生に採用されたときのうれしさは今に忘れられません。私は今まで自分の貯金と学校の後アルバイトでもらった給料で学費や生活費を賄っていたのでそのうれしさはなおさらでした。

この1年間、ロータリー米山奨学金の名に恥じぬよう、及ばずながら学業に学校生活にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみると、至らない部分もございますが、自分なりに有意義な実り多い学生生活を過ごすことの出来た1年間でした。

ロータリー米山奨学生としての1年は私にとっては色んな面で勉強になった1年でした。

この1年間奨学金という経済的支援をいただき、以前よりは心の安定した生活を送りました。しかし、その奨学金は色んな方々の汗から出たもので、生活が安定した分自己啓発に励み、ご支援いただいた奨学金が無駄にならないようにするのが私がロータリーの皆様に恩返しできる唯一のことだと思いましたし、それが私のもうひとつのモチベーションになりました。つまり、感謝の気持ちを忘れてはいけないということを皆さんから教えていただいたのです。

つぎに、人への奉仕という美しさを学びました。一ヶ月一回の例会出席でしたが、そのたびにロータリア

ンの方々の話を聴かせていただくと、今まで心の中で奉仕は私が余裕があるときにするものだ、また私には早いと言いきかせた自分が恥ずかしくなりました。奉仕は大して大きいことじゃなくても自分ができる範囲で人を配慮する気持ちをもってやることだということがわかりました。そのことで、去年の11月に大阪マラソンのボランティア活動に参加させていただき、奉仕の幸せを味わうこともできました。

そして、毎月例会の前に竹内さんとロータリアン方々の各事業所を見学させていただくことで、どういう風に自分の道を進むべきかを勉強させていただきました。皆様の会社を訪問させていただき、その上に今に至るまでの話を聴かせていただいたのは今年大学を卒業して母国に帰り、新たな道を歩かないとならない私にとっては最も大事な経験でした。今まで私が頑張ったのは皆さんの努力に比べたら恥ずかしいもので今からはその百倍以上頑張るべきだと自分に拍車をかけることができました。

こういったこと以外にも去年春ごろの家族旅行、そして夏の天神祭りの船、クリスマスの家族パーティなど皆さんと一緒に作ったさまざまな思い出は私には絶対忘れられません。

経済不況が言われる中1年間変わらず支えてくださった東大阪みどりクラブの皆様、心から御礼を申し上げます。とくに忙しい中毎回会社見学に連れて行っていただき、そして良い話でご指導いただいた竹内さん、本当にありがとうございました。希望の学業を修め、晴れて卒業の日を迎える事ができるのも、皆様のご支援のお陰と、私は勿論、家族一同感謝の気持ちでおります。

卒業後、新たな人生の一步を踏み出しますが、こうして私を支えて下さった皆様へのご恩と感謝を忘れず、ロータリーの精神を忘れず、またロータリー奨学生というプライドを胸にもってより一層精進して参りたいと思います。続けての皆様の応援宜しく願いいたします。1年間本当に有難う御座いました。

感じたこと

第三回米山奨学生スピーチコンテスト作品



最優秀賞

手に手つないで、ロータリーの精神を広げよう



大阪大学
張 碩 (中国)
世話クラブ：大阪大手前RC

ロータリーソングの中に「手に手つないで」という歌があります。米山奨学生となったこの6ヶ月余りの間、私は手に手をつなぐことのパワーを深く感じています。

オリエンテーションの時のことをまだ覚えています。私のカウンセラーは北村光司さんです。北村さんはちょうど私の父と同じ年で、非常にやさしくて、何でも教えてくれそうな方です。オリエンテーションのときに、奨学生は一人ずつスピーチをしなければなりません。私はものすごく緊張して、事前に準備してきた「セリフ」を何度も忘れてしまいました。しかし北村さんはいつも私の方を見て頷いて励ましてくださいました。スピーチの後、彼は両手で私と握手して、「とてもよかったですね」と言いました。私は彼の両手から感じたのは家族のような、ずっとどこかで自分を支えてくれているような温かさです。

私はその後大阪大手前クラブの例会に参加し、多くのロータリアンたちと知り合い、この大家族の一員になりました。

皆さんご存知の通り、9月に入って、尖閣諸島を巡る日本と中国の揉み合いが始まり、多くの日中間の友好交流活動が取り消されました。私は1人の留学生としてこのようなニュースを見て非常に悲しく感じてい

ます。私は例会で自分の気持ちをこのように表しました。「こういう時こそ、日中両国の民間における友好交流が一番重要だ」と。スピーチの後、クラブの山本会長は私と握手しました。彼は何も言いませんでしたが、この握手は国際友好は何よりだということを語っていると、私は感じました。

米山ロータリーは留学生に対する奨学事業だけでなく、他のたくさんの奉仕活動も行っています。世界各地で活躍しているロータリアンたちの姿を見て、自分の心にも奉仕活動に参加したいという考えが芽生えました。そこで参加したのは「暮らしサポート隊」という支援団体です。この団体は東北から避難されてきた東日本大震災の被災者たちをサポートするために、毎月茶話会を催しています。私もそのスタッフの1人として、食事前の準備をしたり、被災者の子供たちと一緒に遊んだりして、地震と津波がもたらした苦痛を少しでも和らげるために努力しています。今まで3回しか参加しておらず、まだまだ経験不足なのですが、非常に印象深かったことがあります。それは2回目に参加して、食事の後に子どもたちと一緒に遊んでいた時の出来事でした。私が担当したのは4歳のジュン君、去年の震災後母親と生後数か月の妹と一緒に避難してきた男の子です。ジュン君はとてもおとなしい子で、木の棒で地面に穴を掘るのがとても好きだったようです。何か宝物が掘り出せるようにずっと1人で静かに掘っていました。そして私も彼のそばに座って、何が出てくるのかなあと言いながら彼と一緒に掘り始めました。当然掘り出したのは石や葉っぱのようなものです。しかし何か出てくるたびにジュン君はとても嬉しそうにそれを集めます。ですから、あっという間に、もうかなり深いところまで掘ってきました。そのとき、ジュン君は突然言いました。「ずっと掘ってな、下から津波が来たらどうする？」と。...私はその瞬間あっけにとられてこの4歳の子どもの質問に答えられませんでした。しばらくした後、私はジュン君の手を握って彼に言いました。「大丈夫だよ、ジュン君は男の子だから、手でこの穴をふさいだらもう津波は来ないよ」と。ジュン君は何も言わずにちょっと私に微笑んで、また掘り始めました。地震と津波は一体どれだ

けの苦痛をもたらしたか、経験したことのない私には理解することができません。しかし、この4歳の子どもの心にはまだ深い傷跡が残っているということがわかりました。この傷跡は1年経っても、5年経っても、10年経っても治らないかもしれません。しかし、彼らをサポートしている人々の努力によってきっと治ると思います。少なくともその日から、この4歳のジュン君にとって、穴を掘って遊んでいるときに、もう津波が来る心配がなくなったことでしょう。茶話会が終わった後、ジュン君は母親と一緒にあいさつをしに来ました。彼は手を差し伸べて「また一緒に遊ぼうね」と私に言いました。私も両手で彼の手を握って、頷きながら「また一緒に遊ぼう」と応えました。

「手に手つないでつくる友の輪、輪に輪つないでつくる友垣...」。私は米山ロータリーの一員になって初めてこの手に手をつなぐことのパワーを感じました。カウンセラーの北村さんと多くのロータリアンたちから頂いたこの力は、またボランティア活動に参加するきっかけとなって、私もこの手でロータリーの社会貢献、社会奉仕の精神を実践しています。このように、私たち米山奨学生はきっと国際平和の種となって、これからも自分の手でロータリーの精神を世界各地へ伝えていくことでしょう。



優秀賞

米山奨学生として感じたこと



大阪市立大学
食・健康科学コース
孫 麗（中国）
世話クラブ：大阪なにわRC

皆様、こんにちは。孫麗と申します。よろしくお願いいたします。

今から6年前の2006年4月、私は一人前の栄養士になりたいという夢を抱き、憧れの日本に来ました。そして、幸運にも今年四月から私はロータリー米山奨学会の奨学生になることができました。この半年の間、大阪なにわロータリークラブで、充実した楽しい時間を過ごすことができました。豊富な経験と知識を持ったロータリアンの皆様にとっても親切にして頂きました。ロータリアンの方々と接し、ロータリークラブに対する理解と、異なる文化に触れることができました。感激したことも沢山ありました。そのいくつかをご紹介します。

初めて例会に参加したときのことを思い出します。オリエンテーションの後、4月26日に初めての大阪なにわRCの例会に参加しました。例会場のスイスホテルに行くまで、どんなクラブなのか、何を話せばいいのか不安でした。しかし、例会前にカウンセラーの田ノ本さんが会員の方々に一人一人紹介してくださり、会員の皆様が私にも話かけて下さったおかげで、すぐに不安がなくなりました。自己紹介のあと、4月生まれの私に誕生日のお花や、Birthday songまで歌って下さいまして、とても意外で、涙が溢れるほどうれしくと思いました。ニコニコ箱にも「孫さん、ようこそ・頑張ってください」などの温かいメッセージを頂きました。また、大阪なにわRCにお世話になってからも、カウンセラーの田ノ本さんが忙しい中、よくメールを下さいました。「麗ちゃん、天候が変だから、体調に気を付けてくださいね。」「勉強に励んでください。」などのメールを見て、とても励まされました。

私はロータリアンの方々との会話が一番好きです。ロータリアンの丁寧な言葉遣いや聞き手としてのまじめさに感激しました。また、会話の流れや場の雰囲気コントロールも非常に上手だと思いました。多くの方々から、ロータリーの歴史や社会人としての常識などについても、たくさんの事を教えて頂きました。「他人に自分を理解してもらうより、まず自らが他人を尊重し、相手の立場に立って物事を考える。」という姿勢はロータリアンから教わったことです。

あるロータリアンの言葉が最も印象的でした。「紅茶も、緑茶も、ウーロン茶もみんな種類の葉っぱ、カメラ・シネンシスという木からできているのです。だから人間も同じです。同じ地球に住んでいますから。」この言葉を聞いた時、とても感動しました。私たちは一つの国の国民であると同時に、地球という掛け替えのない惑星に住む人類の一員であることを忘れがちです。自国の利益だけを考える余り、人類全体の利益を損なうのは愚かなことだと思います。国籍は違っても、心がふれあうコミュニケーションと、お互いの意見を理解しようとする誠実さと寛容さ、それから物事を地球レベルで考える広い視野を持てば、様々な問題があっても、障害を乗り越えられると思います。これは米山奨学生になってから、教えて頂いた貴重な教訓です。

また米山奨学生になってから、クラブの奉仕活動にも参加させて頂きました。児童養護施設の高鷲学園へのパソコン寄贈式で、学園の子供たちと、ロータリアンと一緒に楽しい時間を過ごしました。その後撮った記念写真は私のアルバムに残る大切な一枚になると思います。大阪なにわRCの方が持っていったアイスを食べている子供たちの笑顔を見た時、胸が熱くなりました。人間の「生き方」は、人それぞれだと思いますが、「自分のために生きるか、他人のために生きるか」で、人生が変わるのではないのでしょうか。無償で

他人を助けることで、結局自分が他人から沢山のものを頂いているのだと思います。日本には「情は人のためならず」という諺があるようですが、相手から喜びや感謝を感じ取ったとき、人は充実感と満足感を感じます。同時に周囲の人に対して感謝の気持ちを抱くようになります。私はロータリークラブの活動に参加させて頂いてから、そのことがよく理解できました。

将来、私には母国の栄養管理制度を改善したいという夢があります。ロータリークラブで学んだ奉仕の精神を、「食」を通じて健康な社会作りに役立てたいと思います。また、未来に向けた世界平和のために、我々留学生が何をすべきか、今、私はその責任を痛感しています。今後私たちの時代が訪れ時、この日本での留学生活を通じて得た経験や知識で両国の架け橋になりたく思います。

今の私はこのバッジの一枚の花びらですが、将来は、専門的な知識と広く深い精神を身に付け、いつの日か満開の桜になれるように努力するつもりです。

ご静聴有り難うございました。



優秀賞

私とロータリーとの縁



関西大学
文学研究科
朱 翔 (中国)
世話クラブ：吹田RC

皆さん、こんにちは、朱翔と申します。お世話クラブは吹田ロータリークラブです。吹田ロータリークラブの皆様大変お世話になっています。現在関西大学の文学研究科で夏目漱石について研究しています。どうぞよろしくお願ひ致します。

私の出身は中国の雲南省昆明です。日本との交流が盛んである大連や、上海などの沿海都市と違って、昆明は中国西南内陸の都市なので、日本との交流は特に多くありません。しかし、昆明出身の私は日本と切っても切れない縁を結ぶことになったのです。

日本という国についての最初の印象は、私の小学校六年生の時のことでした。1999年に万国博覧会が故郷の昆明で開催され、そのとき万博に出展していた日本館の小橋、流水、庭、青松、翠竹などの「日本風の景象」に強く惹かれました。それで私は、自分の願望を密かに綴った短冊を飾り竹の上に結んで置いたのです。その時の願いというのは「ある日、日本へ留学出

来ますように」という私の切なる志でありました。これが日本との最初の縁です。

2012年4月の桜の満開の頃、日本に留学している私はロータリー米山奨学生になりました。この桜の満開の日に、初めてカウンセラーの中川さんと出会いました。この日に、中川さんは「今日から私は翔ちゃんの日本にいるお母さんだよ」と、このように心を暖める言葉が言ってくれました。この日から、私はロータリーという大家族との縁を結びました。この日から、異国他郷にいる私の周りにはたくさんの家族がいてくれています。この日からの毎日はまるで暖かい愛が包み込んでいるように感じます。

8月のことですが、吹田ロータリークラブの石井会長から、甲子園に高校野球を見に行こうと誘われました。会長ご夫妻と会長の弟さんの4人で高校野球を見に行きました。故郷の家族たちと離れ離れになっている私は久しぶりに「家」の雰囲気、「家」の暖かさ、「家族」と一緒にいる時の幸せを感じました。会長ご夫妻が私のことを親切にお世話してくださっている場面を見る度に、国にいる両親の姿を頭の中に浮かべて来ました。甲子園へ行く電車の中で会長やご家族と笑いながら話し合っていました。まるで自分の両親と一緒にいるようでした。殆ど野球のルールを知らない私は、会長に質問をして、会長からいろいろ教えてくださいました。

その中の一つは、野球のことを中国では棒球と言います。中国ではテニスは網球、バスケットボールは籠球と言います。なぜ、ベースボールが野球になるのでしょうか。会長のお答えはこうでした。「翔ちゃんは、夏目漱石の研究をしているから知っていると思うけど、夏目漱石の親友に正岡子規という人がいる。夏目漱石は松山で1年間英語の先生をしていたが、子規はその松山出身である。野球というのは、正岡子規の作った言葉である。正岡子規の本名は正岡のぼると言い、すなわち、のボールに漢字を当てて野球になったのである。松山坊ちゃん球場の中には、の・ボールミュージアムというところもあり、愛媛県は野球王国と呼ばれている」と教えてくださいました。ちなみに会長は愛媛県出身で中学校のとき松山にいました。漱石を研究している私は、自分の知識不足で顔が赤くなりました。会長はお父さんのように親切でまたいろいろ教えてくださいました。この一日はまるでfamily dayのようでした。野球のルールが分からなくても、真夏で汗をいっぱいかいても、応援している皆さんの情熱、「家族」と一緒にいる時の暖かさはいまでも、ずっと私の心の底に残っています。

スポーツには国界がなし、音楽には国界がなし、心と心の絆にも国界がないのです。一人で異国他郷にいる私は寂しくありません。私は、日本に「家」があります。日本に「家族」がいます。日本にたくさんの「お父さん」と「お母さん」がいます。そのたくさん

の「お父さん」と「お母さん」は愛に満ちている心を持ったロータリーアンたちです。「お父さん」たちと「お母さん」たちは私の生活を支えてくれていてだけではなく、私の「心」を支えてくれています。娘としての私は、たくさんの愛の応援で夢に向かって頑張っていきたいです。

私は、大学院を卒業したあとは、故郷の昆明に帰って学校で日本語を教える予定です。私は、ただ単に日本語だけを教えようとは思っていません。日本でいろいろ体験したことやロータリーの皆様から教えてもらったこと、米山奨学生として体験した国界のない心と心の交流の暖かい精神、日本人の大震災に直面した時の「頑張りたい」勇氣、日本人の優しさや清潔さや美德。昆明に帰って話したいことはいっぱいあります。日本のいろいろな素晴らしいところを中国の人々に伝えたいです。わが国の人は、日本人の良い所を本当に知らない人が多いように思います。私は、日本語を教えることで、正しい日本を知ってもらって、中国と日本の架け橋になりたいです。それは日本で留学している私、ロータリー米山奨学生としての私の責任と使命です。5年後、10年後中国の中で昆明が一番日本のことを理解している人が多く、日本人のことを好きな人が多い街にしたいと思います。そのために微力ですが頑張っていきたいです。そして、私と日本の縁、ロータリーとの縁、たくさんの「お父さん」「お母さん」との縁は赤い中国結びのように心の中で永遠に結んであります。

以上です、ご清聴ありがとうございます。



近藤副理事特別賞 日本に来て感じたこと



大阪コミュニケーション専門学校
黄 詠翔 (台湾)
世話クラブ：大阪鶴見RC

皆様こんにちは、大阪鶴見クラブの黄詠翔です。今日は私が日本に来て以来、日本語を勉強して、さまざまな経験で感じたことについてお話させていただきたいと思います。

私はそれらの経験のお陰で、日本語についてとても視野が広がりました。「言葉を違う角度から考えると、面白いところがまだまだたくさんある。」と言うことが分かりました。

最初日本語学校にいたときを思い出せば、先生が「日本では嘘をついちゃだめですよ。」とクラスの皆に教えてくれました。それで私は日本人の真面目さを

よく分かるようになりました。

それで、私はここで一つ確かめたいことがあります。どちら様が協力していただければ幸いです.....はい、そちらの〇〇さん、ありがとうございます。

今から私の質問に正直に教えてください、よろしいですか？

「はい」。

それでは、例えばこちらに箱があるとします。

「はい」。

あれ、嘘ついちゃだめでしょ（笑）、ここに箱がありませんよ。

すいません、ちょっとだけ冗談です、〇〇さん本当にありがとうございます。

次は、一度皆様に協力していただきたいことがあります。

皆様の手元に十円玉はございますでしょうか？もしなかったとしても大丈夫です、こちらにも用意しております（大きい十円玉を出す）。

なんと実は！日本の十円玉にすごい仕組みがあるんです！特に後ろの面です。まあこちらのは印刷したもので、見えにくいかもしれませんが、もし手元に十円玉のある方には是非見ていただきたいです。

実は...十円玉の裏にあるこの建物の扉が、よくとじたり、しまったりしていますよ！皆様見えましたか？本当ですよ、私は嘘をついていませんよ。よく見てください、この扉はよくとじたり、しまったりしているでしょう。ん...じゃあもう一回見てみましょう。この扉はよく、閉じたり、閉まったりしていますよ。...開くことはないですよ。

「言葉を違う角度から考えると、面白いところがまだまだたくさんある。」

これは日本としか出来ない言葉の遊びですね。

僕にとって、言語を学ぶのは、色んな面白いところを探すのが一番楽しいことだと思っています。日本の言葉を勉強して、自分の国の言葉とも比較して、どこが違うのかを探すのも、語学勉強の楽しみだと思っています。

先ほどお話しした十円玉のように、国によって言葉の遊び方もそれぞれあって、とても面白いと思います。

ではもう一つ個人的に一番好きな例を挙げさせていただきます。

皆様こちらをご覧ください。（大きい紙を出す）

$1+1=4$ 、そして $2+2=2$ 、

では、 $3+3=?$

ちなみに $4+4=4$ ； $9+9=6$

皆様ご理解いただけたのでしょうか？

実は、これは普通の数学ではなく、日本語の特別な遊びです。アラビア数字で考えてしまうとなかなか分からないともいます。

はい、それではなその回答を説明させていただきます。ご覧ください。

$1+1=4$ （いち+いち=四文字）と言うことです。

つまり、ひらがなの総合数が答えになることです。
ってことは「3+3=?」はい、「4」です、ありがとうございます。

「言葉を違う角度から考えると、面白いところがまだまだたくさんある。」

自分の国は、文法や発音により、こういう言葉の遊びがありませんので、更に日本語を面白く感じました。

最後に、私の留学生生活をいろいろサポートしてくださったロータリーに、感謝を申し上げます。米山奨学生になることにより、日本語の勉強をより幅広く出来て、とてもうれしくて、ありがたいです。これからもずっと頑張りたいと思います！今日のお話はここで終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございます！



若林パストガバナー特別賞

ありがとうを届けたい



大阪日本語教育センター
ペンピニットサシヴィモン（タイ）
世話クラブ：大阪梅田東RC

今年の2月9日、いつものように日本語学校に通っていた私は学校の担任の先生からロータリー米山記念奨学金の合格をの知らせを聞きました。自分でも信じられないぐらい嬉しくて、国の家族にもすぐ合格を知らせようと、電話をかけました。

「お母さん、奨学金に合格できたよ。これから私の生活のことを心配しなくていいからね。」と言うと

「おめでとう。よかった。あなたなら受かると思っていたわ。」とほこらしげに喜んでくれました。

しかし、その喜びと同時に不安もわいてきました。奨学生に選ばれたことはもちろんありがたいことで、とても嬉しいのですが、私よりずっと日本語の上手な人もたくさんいる中でこんな私なんかでよかったのかな。ロータリーの方々は遠い存在で、立派な方ばかりだから、これからどうやって接すればいいのだろうと心配にもなりました。

最初の例会ではあまり話せなくて、雰囲気にも慣れていませんでしたので、戸惑っていました。そんな時クラブの皆さんに話しかけていただきました。私の肩をたたいて「頑張ってくださいね。」と言ってくださ

る方もおられました。そのたった一言でその時あった緊張感が和らぎます。

私は例会に通うにつれて、だんだん馴染めると思いましたが、将来のことや進路のことで落ち込んでいたり、カウンセラーさんの気遣いにこたえることを怠ってしまったことがありました。そんな自分にはあまり気がついていませんでした。いろいろなことが重なって、ついにカウンセラーさんの怒りに火をつけてしまいました。カウンセラーさんにひどく叱られてはじめて、悪かった自分に気づきました。叱ってくださったのは当然のことだと今はとても反省しています。むしろ、私のことを心配してくださって叱ってくださったのでしょし、もっとがんばってほしいと言いたかったからなのかもしれません。

また、私と遠く離れた家族の気持ちにこたえられなかったこともあります。私は日本に来たばかりの時、生活にも学校の勉強にも追われてあまり詳しく話しもしませんでした。何か困ったことがあったらとりあえず自分で考え、自分で解決しようとするのがよくありました。そのせいで家族との気持ちが離れてしまいました。私は勝手に日本にきて、自分の夢を追いかけるばかりで、後ろで支えてくれる人のことはあまり気にしませんでした。父のガンが見つかった今となって、私のことを応援している家族はとても大切だとつくつく感じています。実は私の家族は前からだれも病気の病気をしたことがなかったので、父の病気の知らせを聞いた時、いても立ってもいられずいらいらしと心配が募りました。その時は家族と連絡を取りたくても、なかなか連絡はできませんでした。日本にいる私には何もできなくて、情けないと思いました。けれども、父の手術日はちょうど、世話クラブの例会があった日で私の卓話の日でした。このことをクラブの皆さんに打ち明け、クラブの皆さんも一緒に祈ってくださいとお願ひしました。すると「手術は必ず成功する」と温かく励ましてくださいました。またクラブの皆さんにご心配をかけてしまって申し訳ないことになってしまったかもしれませんが、独りで悩みを抱えていた私はちょっとずつ楽になりました。

皆さんのお陰さまでその日の手術は成功したそうですが、父はまだ体が弱く入院し、ガンの治療を受け続けています。

私は、日本に留学してきて、楽しいことや辛いこともたくさんありました。けれども、たくさんの方々から応援をいただいて、今は乗り越えようとしています。私はロータリーのみなさんに支えていただいているからこそ、これからも前向きになって頑張れると思っています。

最後に遠く離れた国の家族、私のわがまを承知で日本に留学させてくれてありがとう。そして、私のことを応援してくださってカウンセラーの木野さんご家族をはじめ、世話クラブの大阪梅田東口ロータリークラブの皆様や多くのロータリアンの皆さんに、心からありがとうございますと言いたいです。

日本に留学して、感じたこと



大阪教育大学
自然研究専攻 生命科学コース
ガンゲン（中国内モンゴル）
世話クラブ：大阪北RC

大阪北ロータリークラブのガンゲンと申します。大阪教育大学、自然研究生命科学コースの3回生です。今年の4月から、バッチをつけることで、私は米山奨学生になりました。

日本に来たのはもう4年半前のことです。18年間、一度も地元を離れたことのない私にとって、留学生活は一種の挑戦でもあるとも言えます。飛行機で3時間を経て日本の地面を自らの足でしっかり踏みしめたとき、私のハラハラした気持ちはやっと落ち着きました。初めて飛行機に乗る時の感覚と同じで、日本での生活がすぐに現実になると考えると、自分の興奮する気持ちを抑えられませんでした。カートに積まれた重い荷物を押して、綺麗な地面を踏みしめながら、私はこれからの人生へと歩いていった。私の吐息と歩みの中には不安と焦りがありました。教科書やテレビの中での「日本」、そして憧れていた日本留学生生活が現実になりました。初めて中国から出て、初めて日本人の世界へ入って、初めて日本の学校で勉学をして、初めて……数えきれないほどの「初めて」が今までの生活に起きています。

日本は静か、日本人はとても礼儀正いと今までも私が一番に感じたことです。最も印象に残っているのは来日したばかりの頃、横断歩道でのでき事です。横断歩道で人が道を渡ろうとすると、譲ってくれた車に先に浅いお辞儀をしてから通る光景をよく目にしました。これは内モンゴルにはないことですので、さすが礼儀正しい国だなと感じながら、私もそうするようにしています。日本に来る前に、車が歩行者に道を譲るのが当たり前なことだと思っていたが、徐々に、お辞儀をすることによって、譲ってくれた人に「譲ってくれた、ありがとう」という感謝な気持ちを持つようになりました。

アルバイトの経験を通して、私は日本人の生活にもう一歩近づいた気がして、そして、日本人は人に迷惑

をかける時はもちろん、他の場合にも「すみません」と返事することが多かったことに気がしました。飲食店で働いている私に、耳に入る最も多い言葉は「ありがとう」ではなく、それは「すみません」でした。内モンゴルでは、すみませんという言葉は飲食店の店員にはめったに使わない言葉です。これが不思議でたまりませんでした。日本人の店長から教えていただいたのは、「比較的に縁の遠い人から、図らずも恩恵を蒙ることは、最も不快に感じる場所だ」と。日本人は恩を感じることを重視し、たとえ私のような縁のない店員であっても、日本人で見れば、恩を蒙ることになるのでしょうか。

高校卒業してすぐに留学した私には、正直に言うと人への思いやり、感謝する気持ちはどんなものなのかを真剣に考えたことはありませんでした。これを私に教えてくれたのは今まで出会った日本人の方々です。そして米山奨学生に選んでいただいたことによって、ますます深く感じました。クラブのロータリアンたちが励ましてくださったり、見学をさせてくださったり、おかげで、私たち奨学生の留学生生活を充実させていただいています。学友会の方々にも様々なイベントを計画して、誘っていただいたりしています。みんなが下さった愛の元で生活を送っていると思います。

この4年半の留学生活で、他人のために努力している方々の姿を目にして、私の考え方も少しずつ変わってきました。昔は自分の周りのことだけを見ていたが、今は他人への思いやり、感謝する気持ちはどういうものかを分かり、何かをやる前に他人のことを考えるようになりました。数え切れない「初めて」の出会い、そして出会った方々から教えてくださった感謝の気持ちを持って、みんなから受け取った愛を他人に伝えながら、歩いて行こうと思います。

「留学生としての生活」



大阪大学
薬学研究科
李 相儒（中国）
世話クラブ：豊中RC

こんにちは。私は大阪大学薬学研究科の博士二年生、李相儒と申します。今年の4月から米山奨学生に採用されました。今日の発表テーマは留学生としての生活についてです。

私は2009年の10月に日本に来ました。今で、もう四年経ち、日本の生活に慣れましたが、日本に来たばかりの時の苦しさはずっと忘れません。でも、とても懐

かしい記憶になりました。私は留学する前は、ずっと実家で生活して、親の世話になっていました。その時は何も考えなくてよくて、困った時は親や友たちなど頼れる人がたくさんいたからです。しかし、日本に来た瞬間、一人になりました。まったく違う環境で生活するのに、どの留学生にも三つの困ったことがあると思います。一番困ったのは言葉です。特に初めて日本に来て、いろいろしないといけない手続きなどがあるのに、下手な日本語しか喋れなくて、本当に大変でした。次に困ったことは経済、つまり生活費の問題です。日本の物価も給料も中国に比べて、平均的に数倍高いのです。もちろん外国に留学するための貯金を持ってきたのですが、物価が高いので貯金はすぐなくなりました。その時は奨学金を申請する資格を持っていなかったもので、唯一の方法はアルバイトすることでした。運が良かったのか、三ヶ月後、アルバイトを見つけました。現在は米山奨学金の支えをもらっています。この場でロータリークラブの皆様にごく心より感謝の気持ちを伝えたいと思います。三つ目に困ったのは孤独です。留学生は殆ど一人暮らしなので、孤独に耐えないと、生活はできません。留学することは、実際は孤独との戦いです。その時から私の生活は、学校の授業とアルバイトそして、すぐに帰宅という単純な繰り返しになりました。こういうふうには、私の留学生活は続いてきました。ここまでの記憶は苦しいが、でも懐かしいものです。この経験のおかげで、私はいろいろな面で成長しました。

日本に留学する目的はもちろん、勉強が一番でしたが、それ以外、異国の文化や自身の視野を広げることも大事だと思います。日本は世界で発展した国家として、自国に特有の文化を持っていると感じました。茶道、華道、それに剣道に関して、中国にいたとき聞いたことがある言葉です。私は一度茶道の見学を経験したことがあります。静かな、やさしい雰囲気を感じました。また正月の初詣や、いろいろな祭りなども経験して、日本の文化をたくさん体験しました。もうひとつ日常生活から感じているのは、日本人の親切と礼儀正しさです。例えば、「すみません」、「ありがとうございます」、「ごめんなさい」、「どうぞ」、「失礼します」など、毎日のようにこんな言葉が聞こえます。このような礼儀をもつ国は世界でも数少ないでしょう。この礼儀正しさに強く感心させられた事件があります。それは去年3月11日の日本大震災です。その時の怖さは留学生も含めて、みんな一生忘れないでしょう。留学生としての私が日本の復興に期待を寄せたのは、震災の際の日本人の冷静さ、団結力と責任感の強さです。非常時にも落ち着いて対応して、秩序を守って、日本人が自分自身の行動で世界を驚かせたと感じました。本当に日本の復興をこころより祈っております。

さて、話を自分のことに戻します。私は後一年半で卒業します。卒業した後、中国に戻って、就職した

いと考えています。日本で学んだ知識を活用して、社会で有用な人材になりたいと思います。その時、日本の精神や、日本での経験も周囲の人に伝えたいと思っています。それは大事な宝だと思います。

以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

日本へ来てから感じた愛



大阪電気通信大学
デジタルアート・アニメーション
専攻
謝思佳（中国）
世話クラブ：大阪平野RC

日本へ来てもう4年になりました。この4年間の間に沢山の困難と出会って乗り越えるように努力しました。そして最も支えてくれたのは家族の愛です。

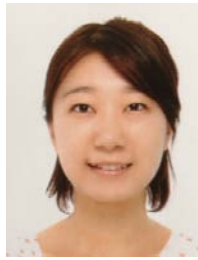
日本へ来たばかりの時日本語の勉強や自分の学費、生活費を払わなければなりません。そのために毎日アルバイトして、平日は12時間、休みになって36時間をずっと働くこともたくさんありました。また若いから大丈夫だろうと思いましたがやはり20年間わがままに育ててくれた自分の体は耐えられなくて体の支障がでてきました。それは右の足がずっとしびれていて勉強の時でも寝る時でも痺れて続けていました。その時自分はそろそろ死ぬではないかと思って東京にいる親類のお姉さんに電話してお姉さんは早く病院に行ってください、もし何があったら大変でしょうと言われたがお金がない僕はそのまま頑張りました。ある日母親から電話が係ってきました。出ると母親の鳴き声が聞こえました。「早く中国戻りなさい、もうそれ以上に苦勞をさせたくないから、足はどうですか」とお母さんは泣きながら言いました。「もう直しました、大丈夫だ、心配させてごめね。また宿題があるからまた電話する」と電話を切ったとたんで自分は泣いてしまいました。日本へ来て初めてお母さんどのぐらい苦勞したかよく解りました。子供の頃1週間1日しか休めないのに家の掃除や洗濯もの、そして僕の教育やしつけにもちゃんとしてくれました。大学の時に僕の学費のために小さい店を開いて夏になるとエアコンがなくてただの扇風機で朝の6時から深夜の11時まで頑張っていて、1年間、3年間、5年間ずっと頑張りました。時には頑張りが過ぎて入院したのに私に心配させないために毎回電話の中では「元気だよ、元気だよ、しっかり勉強してね」と言ってくれま

した。僕のために自分の人生を生きてくれた母親は僕にとって一番大切な人です。そして、その大切な愛と離れて初めて感じ得るようになりました。将来必ず母親に良い生活をしてあげたい、親孝行をしっかりしてあげたいと思いながら頑張りました。辛い時には、また失敗と出会って立ち上がらない時には海の向こうに父親と母親いつも暖かいごはんを用意して待っていることを思い出したら大きなパワーをもらってもう一度頑張れるようになりました。

そして今年の夏休み研究の機会があって4年ぶりに帰国するようになりました。飛行機を乗ってワクワクしながら両親の姿を想像してみました。4年間の間きつと沢山の苦労したでしょう、きっと白い髪を沢山増えたでしょう。ただ2時間半の距離でしたがとても、とても長かったです。中国に着いて空港の出口で両親の姿を見た時に涙が止まらなかったです。言葉も出てこなくてただ抱きしめていました。その時母親最初の言葉は「なぜごはんをちゃんと食べなかったの、また痩せたじゃないの」僕は「お母さん、ちゃんとごはんを食べていますよ、お母さんとお父さんに格好よく見せたいからダイエットしたんだ」と話しながら家に戻りました。

晩御飯の時に母さんは「4年間は辛かったですよ、寂しかったですよ、大変だったでしょう。」
「はい、4年間は辛かった、大変だった、そして、とても寂しかったです。でも今は一人じゃなくなりました。僕はロータリーの一員になりました。ロータリーの皆さんはお母さんのように沢山の愛をしてもらっています。自分の子供のような思いやりや細かいところまでの気配りなどとても暖かいです。そして、お母さんと同じように色々なところに連れて行って、美味しいものは無料で食べさせてもらっています。だから、日本でも家族ができました、色々お世話になっています。お母さんとお父さんも健康なので今の僕はとても幸せです。」「よかったね、ロータリーの方々の恩は一生をかけて忘れないようにしてね、そしてお母さんの代わりに皆にありがとうと言ってね。」「はい」ロータリーの皆様本当にありがとうございました。そして最後に言いたいことは、おガン色々心配させてごめね、そしてありがとうね。

自分の成長を感じたこと



相愛大学
日本文化専攻
孟夏（中国）
世話クラブ：大阪咲洲RC

米山の奨学金をいただいてから半年になりました。この間で経済的に援助していただくことでだけでなく、一番つくづくと感じましたのは、人とコミュニケーションが大切だと気付いたことです。

米山の奨学生になる前、日本に滞在していた2年間は、毎日日本語の勉強に励み、日本文化の知識を身につけて、日中文化の比較の研究をしてまいりました。ただいつも日本人と付き合うことや、日本社会に触れることなく、留学生仲間と一緒に授業を受けたり遊びに行ったり、自分がまだ学生で専門的な知識を身につけるだけで十分なので、いいと思っていました。

米山の奨学生になって初めて世話クラブに行った時にクラブのメンバーは会社の社長や取締役などの偉い方がいらっしやり、自己紹介したとき、何もわからない留学生の私のことに興味があるのかと思っていました。しかし、私の卓話が終わったとき、皆様から親切に今の勉強とか将来の進路とか家族のことも聞いていただきました。そのとき私が皆さんと別の仕事、別の生活をしているけど関係がないわけではないということをよくわかりました。

クラブの皆さんが私に中国のことについて聞かれて、私も皆さん社会人のことを理解して、お互いにいろいろな話をしたので自分が知らないこともわかるようになりました。世話クラブとの交流や触れ合いを通じてわたしの考え方もこの前よりだんだん変わりました。留学生としては、勉強することは重要ですが、それは全部ではありません。日本にいる留学生としては現在の中国を伝えることも重要です。人と人との交流を通じて互いにどんな生活をしているのか、どんな考えがあるのかということを知ったら、これも両国友好の推進力の一部になれると思っています。

9月22日米山の奨学生たちがサントリー山崎蒸留所に見学に行きました。日本のウィスキー製造が始まったところの山崎蒸留所で写真と映画を通じてウィスキーの歴史を学びました。それに工場に入ってウィスキーの匂いを感じながら作るプロセスも見えたので、社会経験が少ない私に素晴らしい体験だったと思います。今中国では、こんな企業見学などの機会がなく、中国の大学生たちにこのような社会人が働く現場を見せることができれば、卒業後社会人としての自覚もできやすく、就職についても想像しやすくなり助けになると思います。将来は中国に戻って大学の教員になる

うと思っています、中国の大学生にもこんな見学活動を効果的に繰り広げていくために頑張っていきたいと考えています。これは文化交流の一部になれるのではないのでしょうか。

米山の奨学生に採用していただいた、この一年間様々な経験を詰むことができました。これからも文化交流のために小さなことでも地道に努力して自分の力を信じて両国友好の懸け橋にとして役に立ちたいと思っています。

米山奨学生として感じたこと



関西大学
社会学研究科
陳 静杰 (台湾)
世話クラブ：中之島RC

皆様、こんにちは。私は陳静杰と申します。台湾から参りました。来日のきっかけは父がロータリーアンだったので、高校2年生の時に、父が所属した竹南ロータリークラブと福井県越前市の武生府中のロータリークラブ姉妹社との短期交換留学活動に参加しました。それをきっかけに、日本へ留学しようと決めました。その夢を果すため、台湾の大学は応用日本語学科に入学し、台湾の開南大学と日本の星城大学との提携校の関係を利用し、交換留学生として日本にきました。

日本に来て、今年は5年目です。現在、関西大学社会学研究科修士2年生です。去年、10月に、校内の選考により米山奨学金の候補生として、米山奨学金の面接を受けました。皆さんのおかげで、幸運にも今年の4月に米山奨学生になることができました。その日から、大阪中之島ロータリークラブとカウンセラーのNIさんとのご縁が始まりました。

米山奨学生になって半年で、一番の期待と一番の緊張は毎月一回の例会出席でした。一番の期待は毎回例会に出席して、ロータリーアンの皆様の元気な顔を拝見して、みなさんは優しくしてくれ、いろいろな行事に誘っていただくことです。しかし、例会に出席すれば、挨拶の文章を考えなければなりません。それは、一番緊張することでした。最初、皆さんに何をしゃべったらいいか、すごく悩みました。しかも、皆さんの前に立ち、スピーチする前はすごく緊張しました。でも、カウンセラーのNIさんはいつも私の文章を修正して下さり、応援して下さいました。今、場数を踏んで、スピーチすることは怖くなくなりました。例会に出席してロータリーアンの皆様の卓話をお聞きました。各分野で優れた実績を挙げられたロータリーアン

の皆様はその成果を得るため、各分野で一生懸命努力されたことと思います。私はその姿勢に感動しました。そこで私も頑張らないといけないと思いました。

留学生活の中では楽しいことや辛いことがたくさんありました。学校の勉強や異文化でのコミュニケーションや独立生活などがあります。それら辛いことは今から考えると、私の人生の中の宝物です。もちろん、米山奨学生になったことも宝物の一つです。米山奨学生になり、優秀なロータリーアンの皆様と出会うことができました。そのおかげで、普通の留学生では経験できない経験がたくさんでき、ロータリーの奉仕の精神、ロータリーの人との繋がり、人への優しさなども学びました。また、今年の6月に父が所属した竹南ロータリークラブと福井県武生府中ロータリークラブとの姉妹社調印式が行われました。私も参加しました。久しぶりに武生に戻って、短期留学にお世話になった武生のロータリーアンの皆様の元気な顔を拝見して、昔のことをいっぱい思い出しました。その時、何もわからない私が、今は米山のバッジをつけ、米山奨学生として武生に戻りました。以前、「架け橋」という難しい言葉を勉強した時、その意味はよく判りませんでした。姉妹社調印式に参加して、その場で、通訳をしながら両国の方のコミュニケーションをより円滑にできた時、「架け橋」という言葉の意味は何か分かってきました。そのおかげで私もロータリーの奉仕の精神を持って社会へ貢献することと、日本と台湾の関係をより良好にそして緊密にする努力をしようと思うようになりました。そして、このように私が成長できた留学生活を送れたのは、家族の支えがあるからです。もう一つ感謝したいのは、ロータリーです。もし、あの時ロータリーが行った短期留学に参加しなかったら、日本へ留学もしないし、米山奨学生にもならなかったと思います。ロータリーがあるからこそ、今の私がここにいるということをいつも心から感謝しております。米山奨学生になって、すごく光栄です。

ご清聴ありがとうございました。

日韓関係における私の感想



近畿大学
情報学科 情報システムコース
鄭 鐘恩（韓国）
世話クラブ：大阪難波RC

皆様

こんにちは。

米山奨学生の鄭鐘恩（チョン ジョンウン）と申します。韓国から参りました。今は近畿大学情報学科情報システムコースの電子商取引研究室に所属しています。2012年度から、大阪難波クラブにお世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

今年の4月から私は米山奨学生になりました。この度は米山奨学生に選ばれたことを、大変光栄に思っております。たくさんのロータリアンそして私のカウンセラーである井上先生をはじめ、いろんな世代、職業の方と、また、違う環境、国で育ってきた留学生たちと交流を深めることができて本当に心から感謝しております。現在は、このように違う国、文化を尊重してくださる環境に恵まれているのですが、日本留学当初はうまくいかなかったことも多々ありました。今回はそのことについて話したいと思います。

日本に留学して1年目、日本語学校のと看、私はカラオケボックスでアルバイトをはじめました。最初は敬語に不安があったものの、日本語も積極的に使いながら日本人の友人もでき、楽しくアルバイトをさせてもらっていました。ところが、ある日、突然在日韓国人である店長さんが「お前、竹島についてどう思うねん！ちょっと意見聞かしてや！」と私に領土問題について質問してきました。最初は単に意見交換のつもりで始まったこの会話でしたが、店長さんの気に入らない点があったようで結局1ヶ月後私はそのアルバイトを辞めざるを得なくなってしまいました。

そのできことから1年後、今度は韓国で同じようなことがありました。夏休みに私が韓国に一時帰国していたとき、日本人の友人が遊びに来ていました。その友人をつれてソウルの名所を観光していたところ、その場にいた韓国人の何人かの大学生たちが、日本語で会話している私たちを見てただ日本人だということを理由に、私たちに向かって大声で日本人の悪口を言いはじめました。韓国語で悪口を言っていたのでさっぱり何のことかわからない友達は、ニコニコと笑っているばかりでした。その光景を見た私はあまりにも腹

が立ってしまい、何もしらない友人と大勢の人の前でその大学生達ともめてしまいました。

結局、人と人との付き合いというのはいったい何なのでしょう？その人の人格、考え方を見る前にすでに国籍でその人のことを決め付けてはいないでしょうか。日本と韓国は「近くて遠い国」とよく言われています。お互いつながりの深い国だということでしょう。その一方で、歴史、領土の問題でもめることも多くあります。政権が交代する度、問題を先送りにしたり、政治的に票を得るため日本との歴史、領土の問題を利用することはたびたびあります。そのたび、私たちはお互いのことを理解しようともせず、日本、韓国という国籍だけでその人のことを決め付けています。先ほどお話しした私の経験談もそうでした。私は「私」という存在を知ってもらう前に「韓国人」という偏見を持たれることに壁を感じ、大変悩んでいます。

しかし、今年の4月に米山奨学生になってから、私が韓国人であることを不利に感じたことは一度もありません。そればかりか、いつも例会に行くたびにたくさんのロータリアン、そしてカウンセラーの井上先生が温かく接してくださり、歓迎され、心地よく例会に参加できることに私は感銘を受けました。私を「韓国人」ではなく、「一人の留学生」として見るように努力してくださったのです。そのおかげで、私も少しずつですが、心を開けるようになり、初めて真の心の付き合いができたような気がしました。そして、そこからお互い、相手や相手の文化も尊重しあう関係にまでなったのです。

国という壁を超えて真の心の付き合いというものを米山ロータリアンが私に教えてくださったのです。そして私もいつか、米山奨学生になってから学んだこと、出会った方々、経験したすべてのものを忘れず、人々に貢献できたらと考えています。

最近、竹島の領土問題がまた浮き上がっています。東京の新大久保では「韓国人は国へ帰れ」と右翼団体によるデモが起きているそうです。

しかし、今、私はもう悩みません。米山ロータリアンが私に教えてくださったように、国を超えて、一人でも多くの日本人と心を開いた真の付き合いをしたいです。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

感動させる言葉



大阪ハイテクノロジー専門学校
日本語学科
文 小鵬（中国）
世話クラブ：大阪ネクストRC

皆さん、こんにちは。大阪ネクストロータリークラブの文小鵬と申します。スピーチのテーマは「感動させる言葉」です。

「日本に留学して、日本語を勉強すれば、日本に溶け込むことができる」私はそう思います。仕事も奨学金もない留学生は、国の両親から仕送りをしてもらって、生活費を為替レートで計算しながら生活しています。私もそうでした。学校と寮だけの狭い世界の中で、「日本人ってどんな人々なんだろう」、「日本社会はどんな社会なんだろう」と思いながら生活していました。

留学して半年がすぎ、たくさんアルバイトの面接を受けて、やっと、アルバイトが決まりました。採用の電話をもらった時は、飛び上がるほど嬉しかったです！しかし、言葉や習慣が違う日本でアルバイトをするのは大変なことでした。アルバイトを始めたばかりの頃、よく聞いた言葉があります。それは大阪弁の「あかん」です。最初は、この「あかん」を聞くたびに、怖くて手がブルブル震え、頭が真っ白になりました。でも、不思議なことに、だんだんこの言葉が好きになってきたのです。

ある日、アルバイトで私がグラスを割ってしまいました。破片を拾おうとした時、先輩は「文さん、あかん、あかん、触ったら、あかん。」と言って、私を止

めました。私はこの言葉を聞いて、驚きました。中国では、手を怪我するかもしれませんが、割れた破片をそのまま拾います。人は痛みを経験したら、同じ過ちを繰り返さない、これは中国式の考え方です。しかし、手を切らないようにティッシュなどを使います。私は先輩の言葉を聞いた時、驚いた後、胸が熱くなって涙が出そうになりました。先輩は私を叱ったのではなく、私が手を切らないよう、「あかん」と言ってくれたからです。

この1年でいろいろなことがありました。中でも、嬉しかったのはロータリークラブに入り、皆さんから小さな手紙をいただいたことです。言葉は多くありませんでしたが、皆さんの暖かい心を感じました。この手紙はまるで魔法があるかのように、読むと「私は一人ではないのだ」と思って、勇気が出ました。みなさんのおかげで私は日本語能力試験にも大学院にも合格できました。私にとって、ネクストは私の家、そして会員の皆さんは私の家族です。

今は、「あかん」という言葉といただいた手紙の言葉が、なぜ私をこんなに感動させたのか、よくわかります。それは言葉に「心」があったからではないでしょうか。留学する前、中国語で生活していた私は、「心」を使わなくても、言葉が理解できました。留学してからは、日本語が下手なので、自分の心を開いて、言葉と心で何とか相手に伝えようとしてきました。コミュニケーションとは、心と心で話すことだと思います。人は自分の心を表すために言葉を使っているのです。

私はこれからも、この「心の大切さ」を胸に刻み、人々との交流、そして出会いを大切にしていきたいと思っています。

以上で私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

2013年度会報 募集要項

2660地区米山学友会関西地区奨学生の皆様、

本学友会の活動をまとめる会報第30号の入稿についてお願いいたします。入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、「来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと」どちらかを選んでください。
字数	約1000字
内容	基本的には自由（エッセー・感想文なども可）です。 ※研究レポートを提出することは、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2013年12月25日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿はPCメールでの入稿をお願いします。 ※メールアドレス：yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1.テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。 2.テーマの下に、所属大学および専攻・名前・国籍、と現・元世話クラブの順番でお願いします。（例：〇〇大学〇〇専攻 大阪花子（日本）、世話クラブ：〇〇RC） 3.文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4.提出期限を厳守してください。 5.作文を提出する際、顔写真（JPEG）も一緒に送ってください。できない場合、上記のメールアドレスまでご連絡ください。

ロータリー米山奨学生学友会（関西） 2011年度会計収支決算書

自2011年7月1日至2012年6月30日
単位：円

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	918,074	
特別補助金	595,000	2660地区
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
会費収入	34,000	
総会収入	166,000	米山記念奨学会 19名@3,000円
総会補助金	57,000	
秋懇親会収入	61,000	
懇親会補助金	36,000	米山記念奨学会 12名@3,000円
利息収入	161	
総計	1,967,235	

以上ご報告申し上げます。

会計監査報告
会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	217,259	
事務用品費	105	
交通費	12,920	
会報作成費	262,290	
総会費	458,594	
秋懇親会費用	191,650	
通信費	27,900	
雑費	1,730	
次年度への繰越金	794,787	銀行：764,200 現金：30,587
総計	1,967,235	

2012年7月15日
会計 東 林華

会計監査 荘園 福松

ロータリー米山奨学生学友会（関西） 2012年度会計予算（案）

自2012年7月1日至2013年6月30日
単位：円

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	794,787	
総会補助金	60,000	米山記念奨学会
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
懇親会補助金	30,000	米山記念奨学会
総会収入	400,000	
懇親会収入	80,000	
利息収入	200	
総計	1,464,987	

以上ご報告申し上げます。

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	220,000	
事務用品費	5,000	
交通費	20,000	
会報作成費	200,000	
総会費用	600,000	
懇親会費用	250,000	
通信費	40,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	119,987	
総計	1,464,987	

2012年7月15日
会計 東 林華

2012年度の活動報告

日付	行事内容	場所
2012/04/12	2012年度米山新奨学生オリエンテーション	ヴィアーレ大阪
2012/07/15	2012年度米山総会及新規奨学生歓迎会	リーガロイヤルホテル大阪
2012/09/02	2012年度米山学友会第一回役員会	La Botte Piccola 梅田イーマ
2012/09/22	第一回企業見学会	サントリー山崎蒸溜所
2012/10/14	地区奨学金委員会主催 米山奨学生リクリエーション大会	宝塚観劇
2012/11/03	秋懇親会：一泊二日撮影大会	黒部立山アルペンルート
2012/11/17	第2回 国際ロータリー第2660地区 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト応援参加	大阪科学技術センター
2012/12/07	RI 2660地区2012-2013年度地区大会	国際会議場
2012/12/08	RI 2660地区2012-2013年度地区大会	国際会議場
2012/12/01	(第11回ロータリーX'mas in USJ) 大阪ユニバーサルシティロータリークラブ 主催 施設の児童を招待し、学友会は一日親として協力参加	ユニバーサル・スタジオ
2012/12/22	RI 2660地区第3回米山学友、ロータリー財団学友合同忘年会	ドルフィンズ堺筋本町店
2013/01/20	米山奨学生選考試験の応援参加	大阪日本語教育センター
2013/02/10	2013年米山学友委員新年会 & 第2回役員会	第2660地区ガバナー事務所
2013/02/24	地区奨学金委員会主催の米山奨学生終了者歓送会に参加	ハイアットリージェンシー大阪
2013/03/16	2012-2013年度 米山感謝祭	大阪国際交流センターホテル

編集後記

会報を作成する際に、昨年度米山学友会の活動を顧みて、たくさんの方々にお世話になったことを再び実感し、この場を借りて、協力してきた方々にあらためて感謝を申し上げさせていただきます。誠にありがとうございました。

留学生は色々な思いで、日本、さらに大阪を留学先に選択しました。一方、米山奨学会委員を始めとするロータリアンたちも、それぞれの考えを凝らしながら、各国からの留学生を支援してきました。本会報は、まさに、このような学友とロータリアンのそれぞれの思いと気持ちが語り合えるチャンネル作りに努めて来ました。

学友会も以上のような考えに基づき、学友たちが自ら企画する様々なイベントをサポートしてきました。本会報の表紙に織り込まれた多数の活動写真も、学友の活躍振りを表すと同時に、皆さまの感謝の気持ちを込めた「思い」が美しい「カタチ」になったことを反映しています。例えば、今年度に初めて開催された現役奨学生主催の「感謝祭」はまさにその代表と言えるでしょう。

最後になりますが、ロータリアン各位、学友各位、今年度大変お世話になりました。来年も引き続き、ご指導・ご鞭撻のほどお願いします。本会も、様々なルートを通じて、活発な発信を続けたいと思います。

2012年度 役員紹介

現在、我々2660地区の学友会には会長、副会長、会計、広報、などの役職があります。役員会を行い、総会の進行、懇親会などの行事について話し合って役割分担をしています。役職の詳しい内容を具体的に記載し、各役員が役割を下記の通りを再確認することにしました。

役職	氏名	仕事内容
会長	張 朔源	○学友会の代表として主に外交的な役割をし、全体をまとめる。 ○地区委員、地区委員会事務局又は、各ホストロータリークラブと連絡をとる。 ○学友会行事及びロータリー地区行事についての流れを把握する。 ○記念奨学会と連絡を取り、補助金を申請する。 ○役員会の開催を企画、進行、役員への協力を求める。 ○地区奨学生プログラムの行事に出席し、代表の挨拶をする。 ○会報広告の斡旋。
会長代理 幹事長	何 玉翠	○総会並びに役員会その他の企画及び諸活動の実務及び雑務を総括する。 ○会長と共に会員及び役員をリードする。
副会長	潘 振興	○会長の補佐役として、会長同様に各々の行事の流れを把握する。 ○各役員との連絡 ○レジュメ、連絡網等の作成 ○学友会メンバーとの連絡 ○会長と共に総会の進行及び役員会の報告書作成
相談役	歴代会長	○歴代会長で、会長または役員にアドバイスする。 ○会の運営上または会員に問題が生じた場合の諸事項に対し、相談を受け、アドバイスする。 ※歴代会長の氏名・就任期間については下記参照のこと。
顧問	林 錫璋	○会長などの相談にあずかり、助言を与える。
会計	李 麗俞 東 林華	○会費・補助金の管理、会計全般を経理し、記録する。 ○支出に係わる一切は会長および幹事長の許可を得なければならない。 ○各行事の報告と同時に会計報告をする。 ○年に2回程度、会計報告書を作成し、役員に提出する。 ○総会時までに1年間の総決算をして報告書を作成し、それをもとに次年度の予算を立て、作成する。 ○補助金の納入確認をしてもらう。 ○会報広告費の請求。
会計監査	莊園 福松	○会計監査人は、会計全般を監査し、その結果を総会に報告する。
学術交流	田 由甲 金 恩貞	○会員の学術研究の向上を促進するため、論文集または各種研究情報を編纂し、会員に提供する。
書記	馬 桂霞 金 美蘭	○総会および役員における議事および決議事項を記録し、幹事長に報告する。 ○役員会および役員として執行した全事項を記録し、保存する。
広報	潘 振興	○会報の作成（年に1度発行）、広告記事の誘い ○学友会行事等についての意見調査 ○他地区との交流を深め、学友会活動について意見交換し情報収集する。 ○情報収集の結果を例会時に報告する。
庶務	何 玉翠	○総会および幹事会、または会の活動に必要な物品の購入を担当する。
国際交流	マノハル・ シュレスタ 田 彬彬	○国際交流・理解および友好を深めるため、各種行事を企画する。 ○会員相互、とくに正会員と準会員との親睦を促進するため、通信連絡をし、交流の機会を企画する。
親睦	トラン・トゥ ・ハー・ティ 常 炜	○会員相互およびR nとの親睦を深めるため、日本の社会的および文化的行事に参加する機会を企画する。

編輯チーム

編輯：田 由甲（学友、2009年度米山奨学金受給者、元世話クラブ：大阪池田RC）

校正：常 煒（学友、2008年度米山奨学金受給者、元世話クラブ：秋田南RC）

総括：何 玉翠（学友、1987-1989年度米山奨学金受給者、元世話クラブ：奈良RC）

表紙設計：黄 詠翔（現役奨学生、2012年度米山奨学金受給者、世話クラブ：大阪鶴見RC）



米山奨学生
集え!!

YES! WE ARE ROTARY!
WE ARE FAMILY!

